

◎「目次」

【第二章】……戦慄と恐怖のバイブレーション……………7
はじめてに——一九九九年七月……………10
名状しがたい戦慄のバイブレーション……………15
最初のインドの旅……………23
 ドライラマは予知していた？
 なにがインドへ駆りたてるのか？
 星まつり大柴燈護摩の異変
 金・胎兩壇の護摩を焚く
 ドライラマ猊下の配慮
 白銀の輝きにみちたバイブレーション
 未来予知の定に入る
 戦慄と恐怖の再来
 ノストラダムスの大予言
 アングルモアの大王
 複合文字「アングルモア」の謎
 破滅を救う王——アングルモアの大王

なぜサヘト・マヘトへ行かねばならぬのか？
壊滅するキリスト教文明世界
よみがえれ、アングルモアの大王
あいつぐ奇蹟
満山ひとで埋まるぞ
振動宇宙論
人類文明の輪廻
人類の持つ業の深さ
なぜアングルモアの大王か

【第二章】……よみがえったアングルモアの大王……………157
阿含宗立宗……………158
 プロローグ
 それはアーガマからはとまる
 まらがつている日本の仏教
 阿含経を世に出すことは、シヤカを世に出すことだ……………171
 「おれが恐怖の大王が」……………177
 もしも「予言された人」だったとしたら？……………182
 変化はモンゴルから来た……………186

モンゴルの危機……………194

旱魃かんぱつに燃えさかる大火災

「よし、雨を降らせよう！」

「大貴人が雨を持って来てくれた！」

龍神りゅうじん乱舞

「祈りの力が、いかに偉大なものであるかを

目のあたりに見て、心から驚嘆しました」

全面鎮火の速報、世界を駆ける

慈悲の心と聖なる火

なにかが自分を動かしている……………225

―「雨乞いの法」では、雨は降っても火事は消えない

変化は中国から来た……………233

慈悲と智慧と愛……………239

今度は北京大学での講演……………249

智顛と法蔵のおかしたミス……………250

壁がうち破られた……………261

一九九九年の謎が解けた！……………265

恐怖と戦慄のインド行き……………270

インド政府から公文書の招聘状……………274

大統領からの贈りもの……………278

仏陀現形す……………282

それは仏陀の復活祭だった……………287

おわりに……………292

◎ あとがき……………296

付「インド聖地随行記」

神話創造 新千年紀の遺言

井沢満……………299